

「心の壁を壊す勇氣」

松伏町立松伏中学校三年

氏名 野水 咲笑

No.1

「外国人差別」という言葉を聞いたことがあるだろうか。外国人差別とは、言語、文化、宗教などの違いから外国人に対して、差別的態度や偏見を示すことである。実際に外国人であることを理由に、入居や店への入店を断られるという問題が起きている。この問題は私たちにとって意外と身近なものなのである。私も、外国人差別をしてしまったことがある。道で肌が黒い外国人に出会ったとき、思わず「よ」としてしまった。肌が黒い、という違和感から無意識に「自分とは違うもの」と捉えてしまったのだ。追い打ちをかけるように言語の違いという壁に直面した。見た目が違う上に、言語も違ってコミュニケーションも取れない。そう気付いたとき、私とその人との間に境界線ができた。その時から、少し外国人への苦手意識が生まれてしまった。文化の違いも大きな原因といえそうだが、日本には世界に誇れる文化がたくさんある。テレビでとある外国人が、

松伏町立松伏中学校三年

氏名 野水咲笑

No. 2

「日本の文化はとても素敵ですね。特に、い
ただきます」を食事の前に言う習慣は生き物
への感謝が伝わってきてとても感動しました。
と言ってくれていた。とても誇りしかったです。
だが、日本人にとっては日本文化のみがスタ
ンダードで、海外の文化を受け入れられない
人もいると思う。例えば、韓国では茶碗を持
たずに食事を行う。私も、自然に日本の文化
に当てはめて考えてしまい、行儀が悪いと思
ってしまっただ。でも、これには理由があった。
韓国は金属製の茶碗を使用して、熱くな
ってしまふので持てないそうだった。この理由を
知り、納得することができた。日本人として
日本の文化を過信し、絶対正義と思ひ込むと
偏見が生まれてしまう。だが、文化とその背
景をたくさん知っていけば、偏見もなくせる
と思う。私もすぐ否定的な意見を持つのでは
なく、まずは「知る」「認める」という姿勢
を持つていけるようにしたい。
さらに、私の意識を大きく変えた出来事が

松伏町立松伏中学校三年

氏名 野水 咲笑

No. 3

あった。学校で行ったオーストリアのゲストとの国際交流だ。私は生徒会役員だったため運営側に付いた。最初に抱いた感情は「不安だった。英語は好きだが、本当に外国の人と話せるのか。私に務まるだろうか。そんな気持ちとは裏腹に初めての海外の人との交流にわくわくしている自分もいた。いざ本番を迎え、初めてゲストを見たときはとても驚いた。日本人とは大きく異なる真っ白な肌、目や髪の色、服装など全てが初めて出会うものだったからだ。自分の見た目との違いはあれど、「素敵だな」と良い印象を持つことができた。交流に期待で胸がいっぱいな中、第一部が始まった。第一部で日本の伝統の獅子舞や舞踊歌などを披露した。ゲストのみなさんには新しい出合いの連続だったのか、釘付けになって見てくれていた。そして、体育館が割れんばかりの拍手をくれた。たくさん練習してきた私たちにとって一番嬉しいことだった。その後、ゲストの皆さんがオーストリアの伝統

No. 4

のダンスを披露してくれました。あまり見慣れない楽器の音色、思わず自分も踊りたくなるような陽気な音楽、軽やかなダンスに心が躍りました。そんな気持ちでダンスを見ていたら、ゲストに突然ダンスに誘われました。さすがに動揺が隠せなかったが、優しく教えてくれたおかげで一緒に踊ることができました。最後は全校生徒とゲストで輪になって踊りました。繋がれたゲストの手はとても温かかったのを今でも鮮明に覚えている。見た目も文化も違っていてもやはり同じ人間なんだと改めて気付いた瞬間だった。体育館が笑顔で溢れ、最高の思い出の第一部となりました。そして生徒会で琴を教える活動を迎えた。極度の緊張の中、自分の知っている限りのつたない英語で教えていました。やはり、うまく伝えられないこともたくさんあった。その時は自分が実際にやって見せたり、身振り手振りで説明したりしながら全力を尽くして教えた。私かなぜこんなに頑張れたのか。それはゲストの人々も、私の拙い英語

松伏町立松伏中学校三年

氏名 野水 咲笑

を理解しようとしてくれていたからだ。互いに相手を理解しようとしたからできたのだ。伝わったときは今までで一番大きな達成感を覚えた。体験が終わり、ゲストから「センキユー！」と笑顔で言ってもらえた時、私も笑顔で「こちらこそ！」と返していた。もう苦手意識など感じず、自然と笑みがこぼれていた。前に引いた境界線を越えられた実感があった。そして、それは難しそうに見えて、想像以上に簡単であったことにも気付いた。

外国人差別は一人一人の意識の変化でなくせるものだ。差別をなくすために私達ができることは、まずは自分の中にある「偏見」という壁を壊すことだと思う。壁を壊すには、相手へ自分から歩み寄る必要がある。そうすれば、自然に互いを知り、認めることができる。難しいことかもしれない。でも、その「難しい」を「簡単」に変えられるのも自分だけだという事も知っていてほしい。私の変化が私の未来を変える。さあ、何から始めよう。